

サクラの並木みち (ピンク色のコース)

森林公園入口 ↔ 山頂駐車場
観察所要時間 30分



道の両脇を飾る
オオヤマザクラと
ツメイヨシノを見ながらの散策。

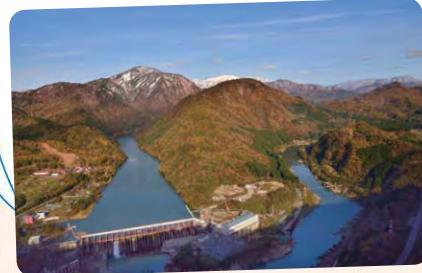
ケジャクチョウ



オoya Yamazakura

ここからの景色がすごい! 白稜青龍の眺め

積雪期や晚秋には、飯豊連峰が雪化粧し、その白く輝く稜線は神々しいほどです。
眼下に流れる阿賀野川は、大きく蛇行して、まるで青い龍のよう。じっと見つめていると、吸い込まれてしまいそうな気持になります。
桜の季節には、角神湖畔が花いっぱいになり、まさにここは「天女の花嫁」。
確かに美しい眺めに感動せずにいるかもしれません。



風を感じよう! 赤崎山頂へのみち (茶色のコース)

山頂駐車場 → 赤崎山頂
観察所要時間 20分



赤崎山頂へ続く尾根沿いのみちは左方に展望が開けた、爽快なルートです。

山頂のパノラマは、天空から眺めたような雄大さ。遠くの只見山系から、御神樂岳や日本平山が一望できます。
希少な「オノオレカンバ」も風に梢を揺らしてあなたを迎えてくれるでしょう。



赤崎山は動植物の宝庫

赤崎山に分布する植物は、これまでに528種が確認されていますが、特にオノオレカンバとエゾヒヨウタンボクは、珍しい樹木です。哺乳類は、特別天然記念物のカモシカ、ツキノワグマ、タヌキ、キツネ、テン、リスなど18種が確認されています。東蒲原郡内に生息する鳥類は185種確認されており、赤崎山周辺では天然記念物のイヌワシや絶滅危惧種であるクマタカなどが見られます。

希少種「オノオレカンバ」

カバノキ科の落葉高木で岩の多い山地に生えます。樹皮は黒褐色で厚く鱗片状に割れています。

4~5月ころ、枝先に垂れ下がるようにして雄花が開花します。

本種の主な分布は、本州中部以北の太平洋側ですが、新潟県内では鹿瀬地区の赤崎山と万治峰だけに確認されている希少種です。赤崎山と万治峰の生息地は、いずれも北向きの岩場のある急斜面です。赤崎山では幹周約84cm、万治峰では222cmの巨木が確認されています。両地域とも現状では植生に及ぼす環境変化の影響は少ないようですが、今後も生息地の環境保全に特段の配慮が必要です。



黄褐色の紅葉と樹形

特徴ある木肌

赤崎山のブナ林

赤崎山に見られるブナ林は、かつて薪炭林として利用されたもので、伐採後に萌芽などで再生した林が大半です。胸高直径は20~40cmの若い林といえます。ブナと共にアカイタヤ、ミズナラ、ホオノキ、アズキナシなどが見られ、低木としてオオバクロモジ、ユキツバキ、エゾユズリハ、ムシカリなどが生育しています。

赤崎山に見られるブナ林のタイプは、以下の三つに分けられます。

ブナ群落① (ブナーオオバクロモジ群落)



ブナやミズナラなどが林を構成し、林床にはオオバクロモジ、リョウブ、ムシカリなどが見られます。中でもオオバクロモジの生育が特徴的です。赤崎山では、森林公園西側の西側に続く尾根沿いの北向きの斜面に比較的多く見られます。

まなびのこみち (黄色のコース)

赤崎山頂展望台「天空の風」→ 池周辺
観察所要時間 20分



たくさんの特徴ある樹木や池の生き物たちを観察しながらの散策。クロサンショウガオやモリアオガエルがエリが待っています。



ブナ群落② (ブナーウキツバキ群落)



ブナが優先して林を構成し、林床を常緑低木のユキツバキが覆っている環境です。赤崎山では、森林公園西側コースの南東から東に面した斜面や尾根にユキツバキの群生を見る事ができます。

ブナ群落③ (ブナーエゾユズリハ群落)



常緑のエゾユズリハがブナの林床を覆う環境です。西側尾根に続くコースの北斜面の一部に見られますが、その面積はユキツバキに比べると小さいようです。

赤崎山散策マップ

至角神・かのせ温泉赤湯

林道角神
五十沢線

至津川・三川

赤崎山 散策マップ



赤崎山 散策マップ

森林公園入口 ↔ 山頂駐車場
観察所要時間 30分

Aコース

Bコース

Cコース

Dコース

Eコース

Fコース

Gコース

Hコース

Iコース

Jコース

Kコース

Lコース

Mコース

Nコース

Oコース

Pコース

Qコース

Rコース

Sコース

Tコース

Uコース

Vコース

Wコース

Xコース

Yコース

Zコース



道の両脇を飾る
オオヤマザクラと
ツメイヨシノを見ながらの散策。



オoya Yamazakura

至かのせ温泉
「赤湯」登山口

林道赤崎線

至津川・三川

至角神・かのせ温泉
赤湯

林道角神
五十沢線

至かのせ温泉
「赤湯」登山口

林道赤崎線

至津川・三川

至角神・かのせ温泉